

## 第五章 新田開発と沼／堰

百姓たちも、また、さむらいたちも新墾き（しんびき＝新田開発）に力をいれた藩政期。\* 藩政期＝藩主その領地内に行う政治、それが行わ

れた時期。慶長七年（一六〇二）、明治四年（一八七一）。

農こそ、くらしの大もとであったし、それにいのちをかけた百姓たちのチエと、力と、汗によるところ大きかった。それにならう、さむらいたちもいた。

川から水を引く小さな堰、大きな堰。

築堤工事で大きく深く、水をたくわえた沼。

鍬一丁で新墾きにいどむ集団の力。

横手でも、こうした新墾きの歴史をみることができます。一年、十年で出来るものもあれば、百年、二百年…とつづくものもあつたのです。

「一の堰」にかかわる「ニンニク神さん」、

「二の堰」にかかわる「七面さん」なども、そうした例といわれます。それに境町村の「高橋武左衛門」の新墾きの例などもあります。

ここでは、

一、「沼入り梵天」と「野御扶持方」新墾き

二、三貫堰

このふたつについての歴史散歩です。